

訪問地別感想

忠南大学校

10時過ぎ、忠南大学着。学生さんたちの温かな歓迎を受ける。思いがけない心遣いに胸が熱くなった。昨年、宮城学院に留学していらっしやった李さんとも思いがけず再会。彼女の方から駆け寄って声をかけてくださったのが嬉しかった。学生食堂でお昼をごちそうになりながら(とても安くておいしい食事だった)同席してくださった忠南大の学生さん三人といろんな話をした。いろいろな質問もした。



真摯に答えてくださった。学生さんたちの日本語レベルが高いのに驚いた。日本語演習と志賀直哉についての講義を半分ずつ聴いた。日本語のみでの志賀直哉文学講義のレベルの高さに驚いた(Kさん)。

忠南大学校では「ビジネス日本語」という授業を受けさせていただいた。内容は「農心ラーメン会社」と「日本ラーメン会社」という仮会社間の接待をロールプレイで行うものだった。私は実際に前に出て参加させていただいた。すごく難しかったが非常に良い経験になった。また、歓迎会で同じテーブルになった方々とずっと一緒に行動を共にしていて、いろいろな話ができ、とても楽しかった。その分だけ最後にお別れするのが辛くて別れがたかった(Iさん)。



昌徳宮・ロッテワールド内民俗博物館

ロッテワールド内の民俗博物館がとても印象的だった。展示物の説明が日本語で書かれていたり、人形などもすごく細かく作られていてわかりやすかった。また、そのような中にも「日本海」が「東海」と書かれている地図などがあり、日本と韓国間の問題につい



て考えさせられた。見学後に韓服を着て記念写真を撮ったこともとても楽しかった(Tさん)。

昌徳宮がとても印象に残った。建物がとても独特で芸術的で、ずっと見ても飽きないと思った(Yさん)。

趙成範先生のお宅訪問

私は趙成範先生のお宅を訪問したことが特に印象に残っている。韓国家庭料理がとてもおいしかったということもあるが、何より先生と奥さんの心遣いが嬉しかったからだ。先生の奥さんは私たちが帰る際、一人一人と握手をしてくださり、その優しさと温かさがとても嬉しかった(Mさん)。



趙先生のお宅へ行ったことが印象的だった。その国の歴史的なものを見学するだけでなく、家に訪問するというのは普通の旅行ではできない、今回の研修だからこそできたことだと思う。短い時間だったが韓国の家庭料理を味わえて、楽しかった(Tさん)。

大真大学校の学生とインタビュープロジェクトを行って

私は国際交流基金の文光子先生のもとへインタビューをしに訪問させていただいたが、先生は本当に気さくな方で私たちの質問に対してたくさんの体験談を聞かせてくださった。特に心に残っていることが、日本語教師を目指す人へのアドバイスで、「まず教えるための技術よりも、教える人の人間性が大切であり、その人間性を育てるためには様々な経験が必要である」というお話だった。



先生は楽しいお話を交えながら様々なことを話してくださって、あっという間の2時間だった。貴重なお話を2時間も聞けて、とても幸運だったと思う(Iさん)。

大真大学校の学生とのインタビュープロジェクトは、韓国研修旅行の中で私が一番楽しみにしていたものだった。しかし、それとともに不安な気持ちもあった。ところが、実際に大真大学校の学生たちと一緒に過ごしてみると、不安な気持ちはすぐになくなった。同じグループになった大真大学校の学生とは、ご飯を一緒に食べたり、いろいろな所に連れていってもらったりと長い時間を一緒に過ごしたので、彼らは私の中でとても大切な存在になった。いろいろな話をしたり聞いたりして、多くのことを学ぶことができたし、とにかく笑っていたし、とても素敵な時間を過ごすことができた。今度韓国へ行く機会があったら、また会いたい(Yさん)。

慶福ビジネス高等学校の日本語授業に参加して

ファーストフード店でお昼ごはんを注文する場面の日本語会話練習だった。先生は韓国語と日本語を半々に使い分けながら授業を進めていた。先生の日本語の発音のみならず、生徒さんの発音もすばらしくきれいなので驚いた。教室の雰囲気は非常に明るく、笑いが絶えない。私が高校で英語を学んだとき、



こんな楽しい雰囲気は全くなかった。本当にこの学校の授業のあり方はすばらしいと心から思った。授業終了後、生徒さんたちが寄ってきて、私たちに一緒に写真を撮ろうと言ってくれた。物おじしない態度がまたすばらしい(Kさん)。

学生たちの明るく、元気で意欲的な姿がとても印象的だった。わからないことを積極的に質問してきてくれて、教えやすかった。学習に対する姿勢など学ぶことが多かった。今まで高校生との学習者と話す機会はなかったので、貴重な経験になり、とても楽しかった(Cさん)。

国際交流基金ソウル日本文化センター 日本語講座の授業に参加して

韓国の方とインタビュー形式で会話をして、東北の三大祭りについて聞かれた。インタビューされるとは知らなかったのだが、それでも自分の住んでいる地域の文化について詳しく答えることができなくて、とても申し訳ない気持ちと恥ずかしい気持ちでいっぱいになった。これを機に、自分の住んでいる地域の歴史や文化などの知識をつけ

よと思った。地域の歴史や文化を知ること日本語教育にとって大切なことだと思うので、しっかり学ぼうと思った(Yさん)。

初めて大学生や高校生以外の日本語学習者の方たちと対話をして、「日本の女性が結婚をなかなかせずに一人であることについてどう思うか」など質問の内容の深さに驚いた。一つ一つの質問も、宮城学院のことや仙台のことなど、私たちがさえ知らないようなことまできちんと調べた上で考えられていたので、とても答えやすかった。大学や高校で日本語を勉強している人たちよりも日本に来た回数が多いためか、日本の観光地や地酒、お土産、食べ物にとっても興味を持っているのかなと感じた。また、話し出すタイミングが重なってしまうくらい積極的に質問をしてくれて、相槌なども自然だったので、外国の方と話しているという感じがあまりしなかった(Tさん)。

